



「公正競争確保の在り方に関する検討会議」 第3回会合における質問へのご回答

2021年1月28日

コロケーションについて、現在の局舎の空きスペースの状況を教えてください。【石田構成員】

- これまでも申し上げてきており、ドコモの完全子会社化やドコモとコミュニケーションズ等との連携によって、**各社と東西との関係が変わるものではなく**、東西は、今後とも各種法令等を遵守していくことから、**公正競争条件の確保に支障が生じることはない**と考えています。
- 東西の光アクセス回線等に対しては、他事業者が電気通信事業を展開する上で、不可欠性の高い設備として、当該設備に関する接続料・接続条件の**適正性・公平性・透明性を確保するための厳格な接続ルールが課されています**。
- これまで東西は、こうした接続ルールを踏まえ、接続約款の認可・公表、事業者要望に基づく接続機能の拡充、網機能提供計画に基づく開発内容の事前開示、接続機能の手続き納期の報告、加入ダークファイバ・コロケーション等の利用可能エリア・リソース等のタイムリーな情報開示等、**適正性・公平性・透明性の確保に努め、円滑な接続を実現**してきたところです。（参考：別紙1-1～1-4）
- また、相互接続以外においても、事業者のご要望を踏まえつつ、光サービス卸をはじめとした**事業者向けのサービスの提供やメニューの拡充を行うことで市場の活性化を図る**とともに、光サービス卸については、提供条件について詳細な総務省への報告を行う等、**公正競争条件の確保にも取り組んできた**ところです。
- 加えて、光サービス卸については、2度に渡り値下げを行っており、**今後も、更なる料金の低廉化や事業者が参入しやすい柔軟な料金メニュー等の提供に努めていく**考えです。
- 報告・検証の精度の向上に向けては、**公正競争上の検証で必要な情報について、今後とも情報提供していく**考えです。
- ご質問いただいた東西局舎の義務コロケーションのリソース（スペース、受電、発電）の利用状況は、別紙1-5のとおりとなっており、各ビルの状況について、接続事業者が閲覧可能なホームページでその情報を開示しています。
- Dランクビルについては、スペース等を確保することは困難であるものの、**当該ビルの近傍ビルも含めて空き状況を開示していることに加え、事業者様のご相談内容に応じて、接続可能なビルのご紹介等**を行っています。また、**新たにコロケーションリソースに空きが生じることが確定した段階で、その見込み時期を情報開示**しています。
- 一般コロケーションのうち義務コロケーションとリソースを共用するものについては、Dランクビルの場合は、**義務コロケーションと同様にお断りすることとなり、事業者様のご相談内容に応じて、利用可能なビルのご紹介等**を行っています。
- なお、情報開示やコロケーションの利用にあたって、**東西が特定の事業者を不当に優遇することはなく、公平に取り扱っている**ところです。

コロケーションに関する取組み

- NTT東西は、有限なコロケーションリソースについて、コロケーションをご要望されるより多くの事業者様に公平かつ効率的にご利用いただけるよう、様々な取組みを実施

	取組みの内容について
リソースに空きが無いビルでの発生抑止や予見性向上の取組み	2002.5 空きリソースが少ない場合は、一の接続事業者様が一度に確保できる量に上限値を設定
	2003.5 コロケーションの申込後の確保期間の短縮・確保していたリソースを解除した場合の違約金の導入
	2007.11 コロケーションリソースに空きが生じた場合に接続事業者様にメール配信実施
	2011.12 装置入れ替え手続きの開始
	2013.1 コロケーションリソースに空きが生じることが確定した段階でその見込み時期を追加で情報開示（2018年3月より当社設備の撤去予定時期に加え、事業者様設備の撤去予定時期を追加）
	2018.3 Dランクビルにおける60cm四方の空きスペースの有無を追加で情報開示
	2018.6 当社の架の空き棚に事業者様装置を設置する手続きの開始
	2018.6 空きリソースが少ない場合に、一の接続事業者様が一度に確保できる量の上限値の見直し
上記以外の円滑にコロケーションをご利用いただく取組み	2004.4 コロケーション受付システムの導入による当社及び接続事業者様の業務効率化を実現
	2007.11 コロケーションリソースと中継ダークファイバ等の空きを一括で調査・回答する手続きを提供し、接続事業者様の申込手続きを効率化
	2014.6 施工結果確認の簡素化（立会い不要な写真での確認を開始）
	2019.12 コロケーション設備撤去後の費用負担に係るルールの見直し
	2020.12 POI調査申込と同時に自前工事申込が可能となる運用の開始

各種情報開示の取り組み①（東日本の例）

- NTT東西は、接続事業者様の加入ダークファイバ・中継ダークファイバの利用に際し、希望エリアでの利用可否等が事前に把握できるよう、情報開示を実施

	加入ダークファイバ						中継ダークファイバ						
開示情報イメージ	都道府県	住所 1	住所 2	住所 3	収容ビル	エリア区分	支店名	起点ビル	終点ビル	ファイバ種別	概算ケーブル長 (km)	全芯線数	未利用芯線状況 ランク
	北海道	●●市■区	▲		●●	A	東京	●●	■■	SM	5.0	50	A
	北海道	●●市■区	△	○丁目	●●	B	東京	■■	△△	SM	10.0	100	C
	北海道	●●市■区	□		○○	*	東京	▲▲	□□	DSM	5.5	50	D
内容	<ul style="list-style-type: none"> 加入ダークファイバの利用可否の情報を下記区分により開示（実際の接続可否は個別回答） <p>A : 原則、利用可 B : 場所によって利用可 *・開示無し : 利用不可</p>						<ul style="list-style-type: none"> 中継ダークファイバの利用可否（未利用芯線の状況）の情報を下記区分により開示 <p>A : 100芯以上空きあり B : 100芯未満～20芯以上空きあり C : 20芯未満～1芯以上空きあり D : 未利用芯線無し</p>						

各種情報開示の取り組み②（東日本の例）

- NTT東西は、接続事業者様の加入ダークファイバ・中継ダークファイバの利用に際し、接続事業者様の予見性が高まるよう、今後の設備敷設計画等についても、情報開示を実施

	加入ダークファイバ								中継ダークファイバ			
開示情報イメージ	支店名	ビル名	提供予定時期	開示日	提供予定の住所（町丁目）				支店名	起点ビル	終点ビル	光ケーブル計画
					都道府県	住所1	住所2	住所3				
	東京	●●	●年度下期	●年●月 開示	東京都	□□市	●●町	○丁目	東京	○○	●●	●年●月増設予定 (●年●月●日追加)
内容	<ul style="list-style-type: none"> 加入ダークファイバの設備敷設計画（予定時期等）を開示 								<ul style="list-style-type: none"> 中継ダークファイバの設備敷設計画（予定時期等）を開示 			

各種情報開示の取り組み③（東日本の例）



- NTT東西は、保有するコロケーションリソース（スペース、電力）について、接続事業者様の予見性が高まるよう、リソース別の空き状況の情報や、新たな空きリソース発生の見込み時期等の情報開示を実施

		コロケーション										
開示情報 イメージ	ビル名	コロケーションの空き場所情報			電力容量の空き情報						備考	
		ランク	空き発生 予定時期	空き発生 予定時期 更新日	受電設備			発電設備				
					ランク	空き発生 予定時期	空き発生 予定時期 更新日	ランク	空き発生 予定時期	空き発生 予定時期 更新日		
	●●	A			A				A			
	●●	D	●年●月予定	●年●月●日	D	●年●月予定	●年●月●日	D	●年●月予定	●年●月●日	60cm×60cmの空きスペース有り	

• コロケーションの空き状況等を下記ランクにより開示

ランク	スペース	受電設備・発電設備
A	18架※1以上の空き	72KVA※2以上の空き
B	～18架未満の空き	～72KVA未満の空き
C	～6架未満の空き	～24KVA未満の空き
D	空きなし	空きなし

※1 1架は、80cm四方の1基準架（伝送装置等を収容するためのラック）を設置可能な空きスペースを表す
 ※2 KVA（キロボルトアンペア）は、消費電力の単位
 * 開示ランクがすべてAランクであるビルの場合、1架あたり4KVAを利用する基準架を18架以上設置可能な空きがあることを表す

義務コロケーションにおける空き状況

【2020年12月末時点】



(単位：ビル)

■東日本

空きランク	スペース		受電設備		発電設備	
		構成比		構成比		構成比
A	531	25%	732	35%	385	18%
B	635	30%	312	15%	251	12%
C	676	32%	996	47%	154	7%
D	279	13%	81	4%	122	6%
発電設備なし※1	-	-	-	-	1,209	57%
合計	2,121	-	2,121	-	2,121	-

■西日本

(単位：ビル)

空きランク	スペース		受電設備		発電設備	
		構成比		構成比		構成比
A	1,488	52%	892	31%	600	21%
B	876	30%	982	34%	253	9%
C	365	13%	962	34%	128	4%
D	146	5%	39	1%	30	1%
発電設備なし※1	-	-	-	-	1,864	65%
合計	2,875	-	2,875	-	2,875	-

※1 「発電設備なし」とは、非常用発電設備を設置する代わりに、蓄電池で非常時の電力供給を行うビルを指す

【凡例】

ランク	スペース	受電設備・発電設備
A	1 8 架※2以上の空き	7 2 KVA※3以上の空き
B	～ 1 8 架未満の空き	～ 7 2 KVA未満の空き
C	～ 6 架未満の空き	～ 2 4 KVA未満の空き
D	空きなし	空きなし

※2 1架は、80cm四方の1基準架（伝送装置等を収容するためのラック）を設置可能な空きスペースを表す

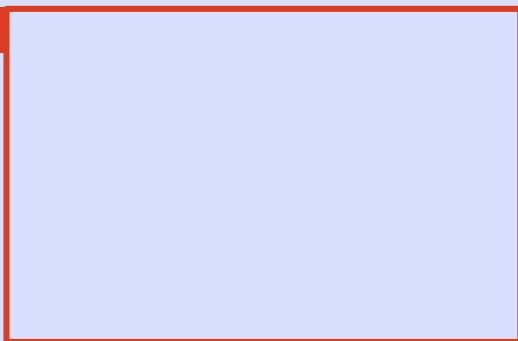
※3 KVA（キロボルトアンペア）は、消費電力の単位

* 開示ランクがすべてAランクであるビルの場合、1架あたり4 KVAを利用する基準架を18架以上設置可能な空きがあることを表す

(参考) コロケーションのリソース

スペース

構成員限り



- 伝送装置等を収容する架（ラック）の設置可能なスペース
- スペースは1架単位で貸し出しを行い、標準的な1架の大きさは、幅:80cm×奥行:80cm

受電設備



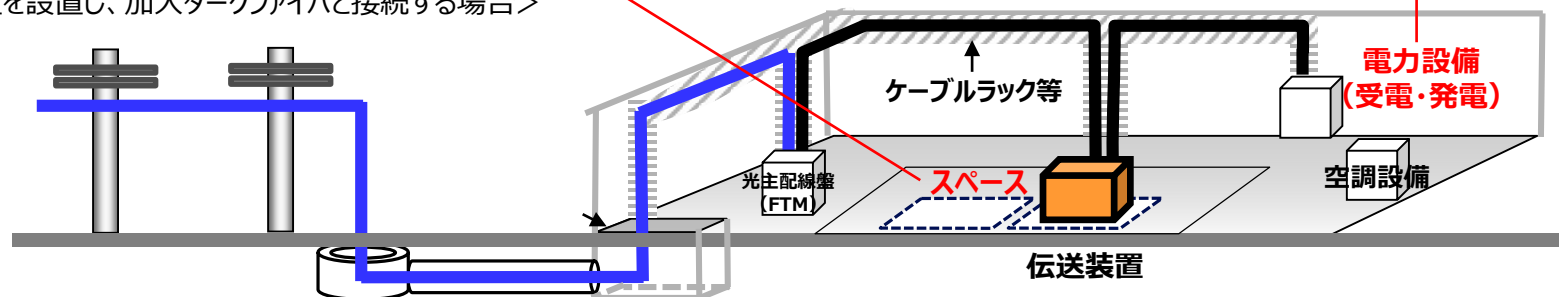
- 電力会社からの商用電源を利用するための設備
- 電力会社から商用電源を受電する受電盤、受電した商用電源を100V等に降圧する変圧器盤、降圧した電力を分配する分岐盤等で構成される

発電設備



- 停電時の電力供給のための設備
- 商用電源が停電すると、自動的に発電機が始動し、電源供給系が商用側から発電機側に切り替わる

<伝送装置を設置し、加入ダークファイバと接続する場合>



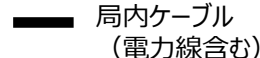
凡例



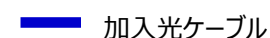
接続事業者様設備



空きスペース



局内ケーブル
(電力線含む)



加入光ケーブル